



シンポジウム

大阪市立大学大学院
都市共生社会研究分野
Presents

ロサンゼルス・阪神淡路・東日本 震災と心のケアを考える

坂本安子さん

世界各地で大規模な自然災害が発生しています。災害は、物理的な損害をもたらすだけでなく、被災者の方々の心のなかに深刻なダメージを与えることが少なくありません。心のケアをどうすべきか。3月11日に発生した東日本大震災でも大きな関心を集めているこの問題に対して、1994年にロサンゼルスを襲ったノースリッジ地震でマイノリティに対するメンタルヘルスケア・プログラムを提供した坂本安子さんと、1995年の阪神淡路大震災、そして今回の東日本大震災で心のケアの問題に取り組んでいる野田哲朗さんにお越しいただき、震災と心のケアについて考えるシンポジウムを以下のように開催することにしました。

お忙しいとは思いますが、どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお越し下さい。なお、このシンポジウムは、大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野の入試広報の一環として実施するため、プログラム終了後、簡単な入試説明会を行わせていただきます。

Little Tokyo Service Center (LTSC)
Social Service Director

LCSW (カリフォルニア州認可臨床心理士)

明治学院大学卒業後、渡米。カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 大学院社会福祉学科卒業、1980年から南カリフォルニアの社会を中心にソーシャルサービスなどを提供しているNPO、Little Tokyo Service Centerに勤務。1983年には臨床心理プログラムの責任者に就任。1996年、Social Service Directorとなり、現在に至る。1994年のロサンゼルス地震では、連邦危機管理局 (FEMA) の資金によりマイノリティ向けのメンタルヘルスプログラム、Project Reboundの責任者としてアジア太平洋系の被災者へのメンタルヘルスを提供した経験をもつ。

野田哲朗さん

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立精神医療センター
医務局高度ケア科主任部長

阪神淡路大震災を兵庫在住の被災者として経験しつつ、大阪府の精神医療救護班の中心メンバーとして支援に関わる。学校被害における心のケアなど広くPTSD臨床に精通し、東日本大震災の救護に早くから参加。大阪医科大学卒業。1988年大阪府門真保健所。1991年大阪府福祉部児童福祉課母子保健係長。1994年大阪府立こころの健康総合センター、こころの健康づくり部ストレス対策課。2002年大阪府健康福祉部障害保健福祉室精神保健福祉課長、06年大阪府健康福祉部地域保健福祉室副理事兼精神保健疾病対策課長、同保健医療室副理事兼地域保健感染症課長。2010年から現職。

- ★日時 2011年7月13日(水)
午後6時30分から9時
- ★場所 大阪市立大学
梅田サテライト101教室
大阪駅前第2ビル6階 JR北新地駅真上
- ★講師 坂本安子 さん
野田哲朗 さん
- ★司会 弘田洋二 (大阪市立大学大学院教授)
- ★参加 無料
- ★予約 不要

お問い合わせ

NPOをツールに共生社会の実現に向けて活動する人材の育成をめざす社会人大学院……

大阪市立大学大学院都市共生社会研究分野

URL: <http://www.co-existing.com>, E-mail: info@co-exisitng.com